

医療法人済恵会 広報誌

## オアシス60号

院長  
須藤 英仁

明けましておめでとうございます。今年も宜しくお願い致します。みなさんにとりまして今年はどうのような年とお考えでしょうか？政治の混乱、外交の混乱など日本の内外は混とんとしておりますが今年が良い年となりますようお祈りしております。

さて当法人では今年のご目標は【着実に一歩ずつ】です。このことはすべての分野に通じることです。当院では電子カルテをはじめIT化を進めておりますがこのことは後退することは許されません。しかし医師がパソコンの画面しか見えていない、などという批判も生じております。このことを解消するため医療事務員を配置できる診察室をさらに増やしていきたいと思っております。少しでも患者さんと向き合う時間を増やしていきたいと思っております。

入院部門では一人一人の入院患者さんの重要な情報を医師、看護部、事務部で共有を図り患者さんの早期回復につながるようなシステムを作っていきたいと思っております。看護部では毎年10名近く、もしくはそれ以上の新人看護師が

入職してきます。このことは病院にとっては新しい活力を生み成長の原動力となることですが、反面ベテランと新人の看護力の不均一がしばらく続くことにもなります。これらの改善のためIT化による情報の徹底は極めて重要と考えております。例を申しますと骨折で入院したAさんは今日の足の角度は30度までまげること。明日はさらに35度に増やすこと、Aさんは糖尿病があるので血糖検査を一日3回行うこと、その時の指示として血糖値300以上の時はインスリンを6単位すること、等々電子カルテの画面できわめて確実に情報を伝達することができます。経験を頼りにする看護から患者さん一人一人の治療方針の徹底により、全ての看護師が同じ看護を展開することが患者さんの回復に大きな力をもたらすと思っております。

また病院勤務医師の疲弊という問題が大きな社会問題となっております。安中市でも整形外科の手術可能な施設が当院だけとなっているため、患者さんの集中が起こっており多忙を極めております。このような事態の中、少しでも医師の負担を減らす意味でも、IT化の促進とともに医療事務の配置の見直しなどにより、患者さんへの時間を少しでも増やす努力をしていきたいと思っております。外来患者さんも自動再来機や自動支払機のシステムにも少しずつ慣れていただいているようです。今後ともぜひご協力をお願いします。

広報誌オアシス 制作 広報委員会  
〒379-0116 群馬県安中市安中3532-5 TEL(027)382-3131 FAX (027) 382-6568



老健めぐみでは昨年来より、レクリエーションの多様化と集中化を図っております。これは相矛盾するようなことですが、通常のレクリエーションでは利用者のやりたい事や身体の程度に合わせなるべく多くの中から選択できるようにし、多くの慰問の方が来ていただけるときなどには利用者さんみんなで楽しんでいただく、そんなメリハリのある行事を組んでいきたいと考えています。

先日は通所利用者さんの希望で

餃子とラーメンの日が実現しました。安中市のおおぎやラーメンの専務さんにも来ていただき普段外出できない多くの方においしいラーメンを提供させていただきました。改めておおぎやさんにお礼申し上げます。そのような楽しめる行事をたくさん考えていきたいと思えます。

今年は**着実に一歩ずつ**進歩していきたいと考えておりますのでどうぞよろしく願いいたします。

院長 須藤英仁

## H23年看護部の目標

### 看護部長 藤原美津子

あけましておめでとうございます。本年もよろしく願いいたします。

看護部の今年の目標に

- ① インシデント(※)に気付く感性和科学的思考を磨き、医療安全に努める。
- ② 清潔な環境整備と整理整頓を実践する。
- ③ 病院経営と自分の業務の関連を確認し、健全な病院経営に参加する。
- ④ 自分から勉強する機会を作る。
- ⑤ 相手の良いところを見つける感性を磨く。

以上の5つを掲げました。

数値評価、具体的行動等とは違い、望ましい目標表現にはなっていませんが、これを看護単位ごとに具体的な内容で目標を立てて進めることにしています。内容について少しだけ説明させていただきます。

①について、現場では転倒・薬の間違い・患者間違い等、事故に至らなくてもヒヤッしたりハッとする場面がたくさんあります。患者様に安心して医療を受けていただくためにも、事前に間違いを防ぐことが重要です。そのためには日ごろから何気なく行動することにも、「おやっ!」と気付く感性を高める努力と同時に、感情を一切取り除き、事実だけを分析する目を養うことも大切です。

⑤について、互いを尊敬し合い、患者中心の看護のために協力し、働きやすい環境を作り上げます。

世の中が慌ただしいなかでは**殊更【人と人の潤いのある看護部】**を目指していきたいと考えます。少しでも前進できるよう努力してまいります。何とぞご指導・ご鞭撻くださいますよう、よろしくお願い致します。

(※)インシデント：重大な事故には至らず未然に防がれた間違い。

# ～老健めぐみの新年のごあいさつ～

## 支援相談員 古島 隆矢

明けましておめでとうございます。今年も宜しくお願い致します。

めぐみにとって昨年は設立から15年目という大きな節目であると同時に大きな転換期となった1年でした。

大きな出来事として言えば、3月に入所施設が60床から80床へ増床になりました。それによって、今まで以上に多くの利用者が利用していただけるようになり、院長よりレクリエーションを充実させて、めぐみの利用者様により喜んでもらえるよう取り組んでいくようにと何度も指示を受けました。

そこで、私達はめぐみの目標としてレクリエーションの充実というテーマを掲げ、真剣に取り組む事にしました。施設内でレクリエーション委員会を立ち上げ、委員会を中心に日々のレクリエーションの内容を充実させる為、レクリエー

ションの種類を増やして、利用者様に選択してもらえるようにしたり、外出行事を行ったり、一人暮らしで外出が難しい利用者様のどうしてもラーメンが食べたいという希望を叶えるため、おおぎやラーメンに協力を依頼し、お店と同じラーメンの提供をする、新しい取り組みを始めました。どのレクリエーションもご好評をいただきましたが、課題はまだまだあると私達は考えております。

今年は利用者様一人一人のご希望に応えられるように一人一人個別に調査をしていく等の対応を検討しており、利用者様により喜んでいただき、めぐみを利用して良かったと思っただけのように取り組んでいきたいと考えております。

皆様方からも何かご意見などがございましたら、遠慮なくお話をいただければありがたいと思います。宜しくお願い致します。

今年も老人保健施設めぐみを宜しくお願い致します。



ラーメンランチでは焼きたての餃子もご用意させていただきました。



利用者様が参加して完成した作品です。作品展にも出展しました。



毎年、夏には納涼祭を開催しています。今年は医療法人済恵会グループ総力をあげての開催予定です。盛り上がること間違えなしです。ぜひ、ご参加下さい。

## ～療養病棟レクリエーションの取り組み～

### 療養病棟看護課長 入内島香織

療養病棟では平成22年度より患者様の活動力を高めるため、レクリエーションに取り組みはじめました。

療養病棟に入院している患者様は、自力での日常生活動作が困難であり、活動的なレクリエーションよりも「耳で聞く」「目で見るといった五感に訴えかけるレクリエーションで楽しんでもらえるよう、療養病棟スタッフは日々努力し取り組んでおります。

年に数回ではありますが、外部からボランティアを招き、病院全体のレクリエーションとして取り組みも計画しはじめました。

当法人の老人保健施設めぐみでは、新島学園聖歌隊による演奏会



が毎年行われ、めぐみ利用者に大変好評であるということから、療養病棟でも演奏会が開催されるように依頼をし、今回昨年12月15日に実現いたしました。新島学園聖歌隊は中学・高校合わせて約60名の生徒さんで構成されております。そんな小さな天使たちが華麗な音色を奏で、患者様・ご家族さま・職員を感動させてくれました。療養病棟では毎年12月を目途に、レクリエーションの一環として聖歌隊による演奏や外部ボランティアを招いたり、様々なことを計画していきたい所存でございます。

昨年の12月15日、当院療養病棟のレクリエーションの一環として、新島学園聖歌隊の学生の皆様にすばらしい歌とハンドベルの演奏をしていただきました。当日は2階療養病棟の食堂広場に50名を超える患者様が集まり鑑賞しました。1時間程の演奏に私自身も気持ちが落ち着き、心に沁みいる気分になりました。患者様の中には涙を流しながら聞いていた方もおりました。観客一同がとても感動している様子でした。今回演奏会に参加できなかった患者様・ご家族の方々、および職員にも、次回このような機会がありましたら是非一度聞いていただきたいと思っております。

療養病棟 介護職員 信澤和臣



ハンドベルの音色や賛美歌がホール全体に響き渡ると、その場にいた人達全ての耳だけではなく、心にも伝わっているという感じでした。患者様も普段がんばっている辛いという表情とは違い、心から安らぎ感動を受けていた様子でした。

療養病棟 准看護師 白石美和子